

1 建築染料がソーピングによって色調が鮮明になることは早くから知られ、実際作業にも利用されている。

この様なソーピングによるセニ上の染料の配列度、分光吸収（セロファン膜による）の変化と、マサツ、洗たく堅ロウ度との相関を求めることを目的とする。

2 Ind. Yellow G K, Yellow G, Gold Orange G, Red GG, Blue RS, Dark Blue BO をそれぞれ最適条件で染色し、引続いてのソーピングの時間を0～2時間に変化させて試料を得た。この試料につきマサツおよび洗たく堅ロウ度試験を行った。又 Sumner, Vickerstaff 等の行った如く、セロファン膜をセニと同じ条件で染色し、その分光吸収および平面偏光による光二色性を測定した。

3 1) ソーピングにより色調が著しく鮮明となる。

2) ソーピング時間の増加に伴ってセニ表面に付着している染料は除去される。

3) マサツ堅ロウ度に対しては期待したほど著しい影響はないが、ソーピングの進行に伴い、堅ロウ度の増進するものも認められる。

4) 洗たく堅ロウ度も著しい影響は受けず4～5級である。

5) 光二色性は明瞭に認められソーピングによる色調変化は明かに染料の結晶化によるものと考えられる。

6) この場合、染料の結晶軸の方向がソーピング前後でセニ方向に直角→直角、平行→直角の2種類の特徴ある変化をするものに分類出来る。